

亀頭包皮灸について

亀頭および包皮に炎症を起こし、発赤、腫脹、痛みを起こすと亀頭包皮灸と呼びます。皮膚常在菌や大腸菌が原因となる細菌感染症が多いですが、真菌感染症や性感染症のこともあります。

全身的な皮膚疾患の一部や糖尿病が原因のこともありますので、皮膚科や内科での治療が必要となることもあります。糖尿病の治療薬である SGLT2 阻害薬（イブラグリフロジン、ダパグリフロジン、ルセオグリフロジン、トホグリフロジン、カナグリフロジン、エンパグリフロジンなど）は尿糖が増えるため亀頭包皮灸の症状が増悪することがあります。

治療

①**洗浄**：軽症であれば、包皮を可能な範囲で翻転させてゆるま湯で軽く洗うだけで改善します。石鹼は使用しないこと、洗いすぎないこと、洗った後は包皮を元に戻すことが重要です。

②**外用薬**：炎症が軽度であれば非ステロイド系軟膏（フエナゾール軟膏など）、びらんがあればステロイド系軟膏（リンデロン VG 軟膏）、真菌感染であれば抗真菌薬（ニゾラルクリーム、ラミシールクリームなど）の外用を行います。

③**包茎手術**：包皮が固くなっている場合、包皮と亀頭が強く癒着している場合、亀頭包皮灸を繰り返す場合などは包茎手術を行います。